

「全国納豆鑑評会」が開催、県内 2 社の納豆が優秀賞受賞！！

福島市で、2月18日に「納豆日本一」を決める「第10回全国納豆鑑評会」が開催されました。

全国納豆鑑評会は、全国納豆協同組合連合会に加盟する製造メーカーの納豆から、納豆日本一を決める恒例の行事です。納豆の製造技術や品質の向上を目的とし、毎年会場持ち回りで開催されています。

今回の鑑評会では、124メーカーの商品が出展されました。審査は、「色・形・におい・糸引き・味」の5つの項目について、比較審査が行われました。福島県内からは、8点の納豆が出品され、その中から2点が優秀賞を受賞しました。

当日は、福島県出身の食文化研究所オーナー 永山久夫先生による「納豆は世界一の長寿食」をテーマとした講演会が開催されました。

さらに、会場には、本県で栽培を奨励している大豆品種「ふくいぶき」「スズユタカ」「タチナガハ」「おおすず」「コスズ」も展示されました。

福島市は、納豆の消費金額で、全国1位（県庁所在地別）であり、全国的にも消費量の多い地域です。

本県では、平成19年度までに「県内需要に対する充足率100%」達成を目標に掲げ、大豆の生産振興に取り組んでいます。今後、大豆製品の消費拡大を図るとともに、生産者と実需者の連携を密に、関係機関が一丸となり、消費ニーズにあった大豆生産の拡大を強力に進めていく必要があります。